

# バッハ：教会カンタータ第4番 BWV.4

## Christ lag in Todesbanden

バッハは、第1曲のシンフォニアを除く7曲全てを、ルター作コラールを編曲したコラール変奏曲としてこのカンタータを作曲した。元のコラールはルターが1524年に作詞したもので、旋律はグレゴリオ聖歌「過越の生贄を讃美せよ」(Victimae paschali laudes、復活祭ミサの続唱)の旋律を用いたものである。

### 1. Sinfonia

### 2. Chor

#### Christ lag in Todesbanden

キリストは とらわれた 死の縄目に

キリストは死の縄目にとらわれた、

※ lag ← liegen (横たわる、ある状態にある)の過去

für unsre Sünd gegeben,

～のため 我らの 罪 与えられた (geben 完分)

我らの罪のために、(自らを) 与えてくださって。

er ist wieder erstanden

彼は 再び 立ち上がった (erstehen 完分、現在完了)

彼は再び立ち上がった。

und hat uns bracht das Leben ;

そして(彼は) 我らに もたらした 命を

そして我らに命をもたらしてくださった。

des wir sollen fröhlich sein,

それを 我らは ～しよう 喜ぶ

それを、我らは喜び、

※ des (2格指代) 2格+ froh ～を喜ぶ sollen 話者の意志

Gott loben und ihm dankbar sein,

神を 賛美する 感謝する

神を讃美し、彼に感謝して

und singen Halleluja.

そして(我らは) 歌う ハレルヤを

そしてハレルヤを歌おう。

### Halleluja!

※第2曲で、für unsre Sünd' gegeben の部分を、「イエスがユダヤ人によって大祭司や総督ピラトに引き渡された」というのと同じ感覚で「渡された」と訳すことが多いのだが、このページ <http://www.kantate.info/bachkreis/4text.htm> でそれはおかしいと指摘されている。確かにルターは、福音書翻訳では、上記の意味に überantworten を使用している。しかしこれはコラールの歌詞なので、一概に同列には論じられないだろう。しかしながらここでイエスを「引き渡した」ユダヤ人を思い起こさせるのもおかしい話だ。やはり「イエスが自らを我々に与えた」という意味で解釈すべきであろう。※なお上記第2曲と次の第3曲において unsre Sünd' の歌詞は旧バッハ全集ブライイトコプフ版では unser Sünd' とあった。ルターの元詞は unsre で、そうでないと文法におかしかった。新しい楽譜では修正されている。

※第5曲「wie ein Tod den andern fraß」の部分を、「キリストの死が我々の死を食い尽くす」などと、den andern を複数として訳すことが多いのだが、複数でこの形だと3格(間接目的格)となり、fressen の目的語になれない(複数4格なら die andern)。「1つの死がもう1つの死を」と訳すしかない。この節は「イエスの死の勝利」を歌う詞である。では「死と生の戦い」とは「もう1つの死」とは何なのか？(私もこれ以上はよくわからない。)

※第5曲で、出エジプト記「血塗られた扉」が登場し、それを記念する「過越祭 Ostern」を思い起こさせる。(エジプトのユダヤ人たちは、出エジプトの前夜、自分たちの家の扉に小羊の血を塗った。モーセの預言した「エジプト人の家の初子を殺す呪い」はその血塗られた扉を過ぎ越していった。)しかし1行目の「真正の過越の小羊 Osterlamm」は「十字架に架けられたイエス」である。

第8曲終曲コラールで「Osterfladen」とあるのも「過越のパン」ではない。「復活祭 Ostern のパン」である。「古きパン種は新しい福音の側にあってはならない」とあるのは、ユダヤ教からの決別を表現しているのだ。(この部分マルコ 2:22「新しい葡萄酒は新しい革袋に入れる」という話を思い起こさせる。)

### 3. Soprano & Alt

Den Tod niemand zwingen kunnt  
死を 誰も 克服する ~できる※

誰も死を克服することはできなかった、  
※ kunnt=könnte (können 接続法Ⅱ式、3単過去)

bei allen Menschenkindern,  
~によって 皆 人の子ども

皆、人の子どもであるから。

das macht alles unsre Sünd,  
これは 為した 全て 我らの 罪が

これは全て、我らの罪がそうさせたのである。  
※ das は上2行の内容を指す

kein Unschuld war zu finden.  
~ない 罪無き者は 見い出される

罪無き者は一人も見いだされなかった。  
※ sein + zu 不定詞~されることができる(受動)

Davon kam der Tod so bald  
それにより 来た 死が そんなに 早く

それにより、死はそんなにも早く到来し、

und nahm über uns Gewalt,  
そして 用いた ~の上で 我ら 権力を

そして我らの上に権力を振るって、

hielt uns in seinem Reich gefangen.  
我らを その(死の) 国に 拘留した※

我らを死の国に拘留した。  
※ gefangen halten(拘留する)

Halleluja!

### 4. Tenor

Jesus Christus, Gottes Sohn,  
イエス・キリスト 神の 子が

イエス・キリスト、神の子が

an unser Statt ist kommen,  
我らの 代わりに やって来た

我らの代わりにやって来た。※  
ペーレンライター版のみ an unsre Statt(我らの所に)

und hat die Sünde weggetan,  
そして 罪を 除いた※

そして罪を拭い去った。  
※ weg tun(除く)の完了分詞

damit dem Tod genommen  
それによって 死から 奪い取った※

それによって、死から  
※ nehmen 完了分詞

all sein Recht und sein' Gewalt,  
全ての その 権限を その 権力を

全ての権限と権力を奪い取った。

da bleibet nichts denn Tod's Gestalt,  
ここに 残らない 何も ~の他に 死の 形

ここに、死にはその形以外に何も残らず、

den Stach'l hat er verloren.  
トゲを 死は 失った

死は、そのトゲを失ってしまったのだ。

Halleluja!

## 5. Chor

Es war ein wunderlicher Krieg,  
それは だった 奇妙な 戦い

それは奇妙な戦いであった、

da Tod und Leben rungen,  
そこでは 死 と 生が 格闘した

そこでは死と生が格闘したのだ。

※ rungen=rang の古形 (ringen の過去)

das Leben (da) behielt den Sieg,  
生 そこで 保持した 勝利を

生は(そこで)勝利を保持し

※ブライトコプフ版 das behielt (das 関代= Leben、「勝利を保持した生は」)

Ten と Bas にしかこの da は無い

es hat den Tod verschlungen.  
(生は) 死を 呑み込んだ

死を呑み込んでしまった。

※ verschlingen 完分

Die Schrift hat verkündigt das,  
聖書は 告知していた そのことを

聖書はそのことを告知していたのだ、

※ verkündigen 完分

wie ein Tod den andern fraß;  
どのように 1つの死が もう1つを※ 食い尽くした

如何にして1つの死がもう1つの死を食い尽くしたか、

※ den andern は単数4格、※ fressen(がつつかう)の過去

ein Spott aus dem Tod ist worden.  
嘲りが その 死への 為された

如何にして死に対する嘲りが為されたか、を。

※ aus\_spotten(嘲弄する)、worden=受動形を作る werden の完了分詞

Halleluja!

## 6. Bass

Hie ist das rechte Osterlamm,  
ここに ある 真正の 過越の小羊

ここに真正なる過越の小羊あり。

※ブライトコプフ版 Hier ist(意味は同じ)

davon Gott hat geboten,  
そのように 神が 示した bieten(示す)完分

神がそのように示されたのだ。

das ist hoch an des Kreuzes Stamm  
それは 高く 十字架の 幹に

それは十字架の幹に高く挙げられ

in heißer Lieb gebraten,  
熱い 愛 焼かれた braten(焼く、焙る)完分

熱い愛の中で焼かれた。

das Blut zeichnet unser' Tür,  
その 血は 印をつける 我らの 扉に

その血は我らの扉に印をつける。

das hält der Glaub' dem Tode für,  
これ(扉)を かざす 信仰が 死に 対して

信仰がこの血塗られた扉を死に対して突きつければ、

der Würger kann uns nicht mehr schaden.  
虐殺者は できない 我らを より多く 傷つける

虐殺者もこれ以上我らを傷つけることはできない。

Halleluja!

## 7. Soprano & Tenor

So feiern wir das hohe Fest

それなら 祝う 我らは 崇高な 祭を

ならば我らは崇高な祭を祝おう、

※形容詞 hoch の格変化 (hohe, hoher, hohen など)

mit Herzensfreud und Wonne,

心の歓喜 喜び

心の歓喜と喜びをもって。

das uns der Herr erscheinen lässt,

この祭を 我らに 主が 体現する ～させる

主がこの復活祭を我らに体現させてくれるのだ。

※ das (Fest) 4 格、uns 3 格

er ist selber die Sonne,

彼は である 自ら 太陽

主はご自身が太陽であり、



der durch seiner Gnade Glanz

(開代) ～により 彼の(2格) 恩寵の 輝き

その恩寵の輝きによって

erleuchtet unsre Herzen ganz,

照らす 我らの 心を あまねく

我らの心をあまねく照らし、

der Sünden Nacht ist verschwunden.

罪の(2格) 夜は 消え失せた

罪の夜は消え失せてしまった。

※ verschwinden 完分

Halleluja!

## 8. Chor

Wir essen und wir leben wohl

我らは 食べる ※ 生きる 良く

我らは食べ、良く生きる、

※原詩には2回目の wir は無いが、補われて歌われる。

in rechten Osterfladen,

真正な 復活祭のパン

真正なる復活祭のパンにおいて。

der alte Sauerteig nicht soll

古い パン種(酵母)は ～べきではない

古いパン種は

sein bei dem Wort der Gnaden,

ある ～の側に 言葉 恩寵の

恩寵の言葉の側にあるべきではない。

Christus will die Koste sein

キリストは 食べ物 である

キリストは自らが食物となって

und speisen die Seel' allein,

食事を給う 魂を 一人で

ひとり、魂を養い給う。

der Glaub' will kein's andern leben.

信仰は 一つも無い 他に 生きる

それ以外に信仰が生きるすべは他に一つも無いのだ。

※ keines (4 格代名詞) andern (4 格形容詞)

Halleluja!

© 山岸 健一 訳